



平成 26 年 5 月 21 日

各 位

会 社 名： 富士石油株式会社

代表者名： 取締役社長 関屋 文雄
(コード番号 5017 東証第一部)

問合せ先： 総務部 IR・広報グループ 岩本 巧
TEL: (03) 5462-7803
(URL <http://www.foc.co.jp>)

アスファルトピッチを燃料とするボイラー・タービン発電設備建設に関するお知らせ

当社は、本日開催された取締役会において、下記概要のとおり、当社袖ヶ浦製油所(所長:渡辺光司)内に、アスファルトピッチを燃料とする自家用ボイラー・タービン発電設備を建設することを決定したので、お知らせいたします。

記

1. 建設の目的

袖ヶ浦製油所では、減圧残油熱分解装置(ユリカ装置)より生産されるアスファルトピッチ(以下、ASP)の一部をボイラー燃料として使用していますが、同ボイラーは経年により更新等の措置が必要となってきています。また、同製油所は自家発電設備を複数有しているものの、外部からの購入電力比率が相対的に高く、特に東日本大震災後の原発停止等により電気料金が上昇する中、電力コストの引き下げが競争力強化の課題の一つとなっています。

このような状況下、既存のASPを燃料とするボイラーならびに石油ガスを燃料とするボイラーおよび自家発電設備の一部を停止し、その代替として安価なASPを燃料とするボイラー・タービン発電設備を導入することにより、同製油所で必要とする電力および蒸気のほぼ全量を自家設備で賄うことといたします。

これにより、経年設備の更新に対応しつつ、所内エネルギー効率の改善と購入電力料および自家燃料費の大幅低減が可能となる見込みです。

2. 設備概要

建設予定地：千葉県袖ヶ浦市北袖1番地 当社袖ヶ浦製油所内

燃料：ASP(最大消費量：毎時23トン)

最大蒸気発生量：毎時295トン

発電出力：36,000キロワット

運転開始時期：平成29年7月(予定)

3. 今後の見通し

本件による当期連結業績への影響は軽微です。なお、当設備の運転開始予定である平成29年度以降の連結業績への具体的な影響については、今後、中期事業計画の改定等を通じてお知らせいたします。

以 上

別紙-1 装置フロー概略図

<装置フロー概略図>

